

# 社会的孤立の生成プロセス解明と 介入法開発：健康な「個立」を目指して

Clarification of generation process of social isolation and developing the intervention program for social isolation towards healthy "Personal Independence"

筑波大学医学医療系 災害・地域精神医学 太刀川弘和

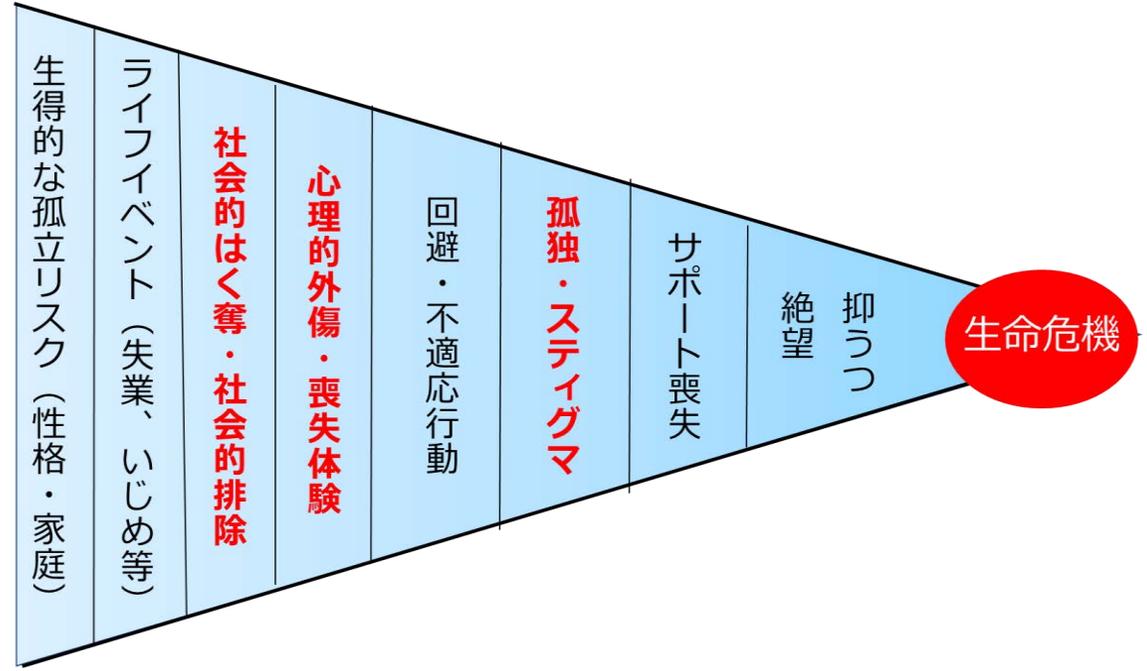
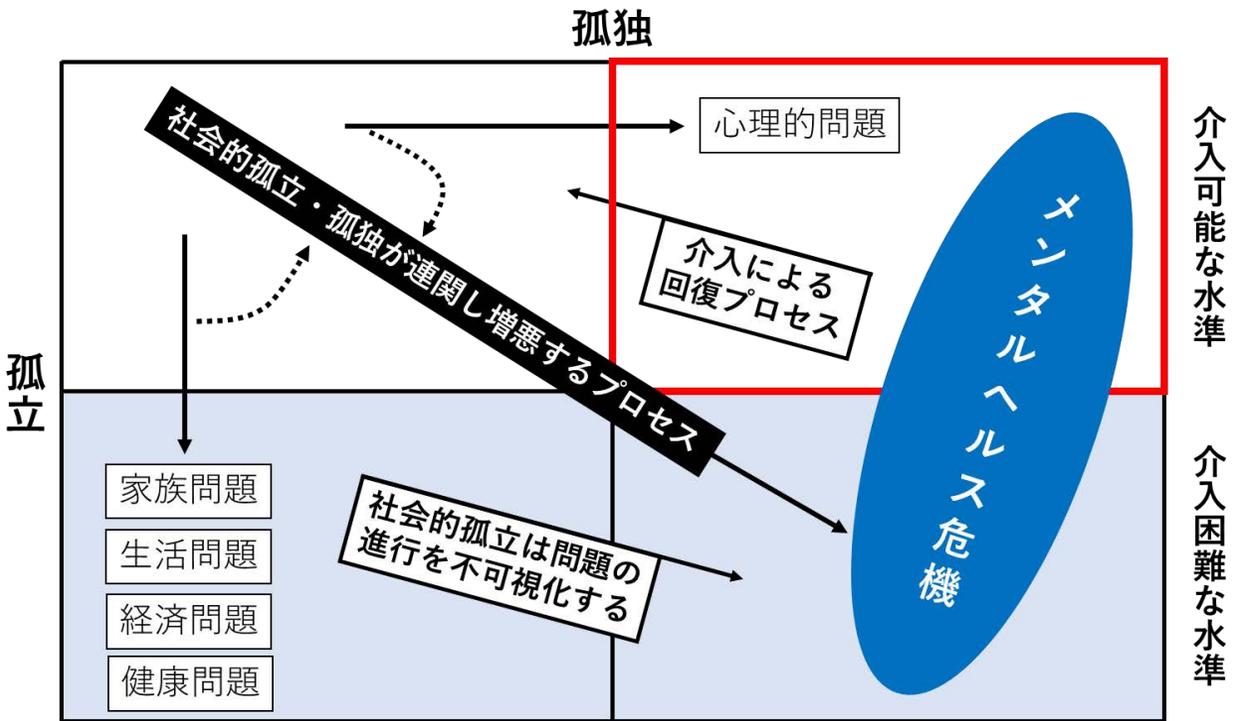
筑波大学医学医療系 精神医学 白鳥裕貴

筑波大学人間系 川上 直秋 菅原大地

東洋学園大学人間学部 相羽美幸

# 従来の社会的孤立・孤独に関する研究活動の問題

社会的孤立は、社会構造の変化に伴って必然的に生じている現象であって、問題は孤立者の孤独や個人の経済生活能力の低下を介して自殺や身体状態の危機、すなわち健康危機に至る点にある。その定義やプロセスは不明確。



# 本プロジェクトの研究の流れ

社会的孤立・孤独プロセスを解明し，孤立・孤独に至るリスク評価法を開発し，  
地域住民による一次予防法を開発する

## ①社会的孤立・孤独メカニズム 理解と、社会的孤立・孤独を 生まない新たな社会像の描出

- ・一般住民やひきこもり、精神障害者ら  
を対象とした大規模社会調査
- ・一般住民らを対象とした縦断調査
- ・社会的孤立者の支援者らを対象と  
したプロトタイプ・アプローチ

・ひきこもり・精神疾患患者  
を対象とした面接調査



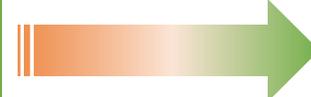
## ②人や集団が社会的孤立・孤独に 陥るリスクの可視化と評価手法 (指標等)の開発

- ・潜在連合テストを用いた大規模な オ  
ンライン実験による社会的孤立者の  
認知的特徴の解明
- ・社会的孤立を助長するスティグマの  
潜在・顕在的測定指標(スティグマ尺  
度)の開発
- ・スマートフォンやタブレットで実施でき  
るアプリケーションの開発



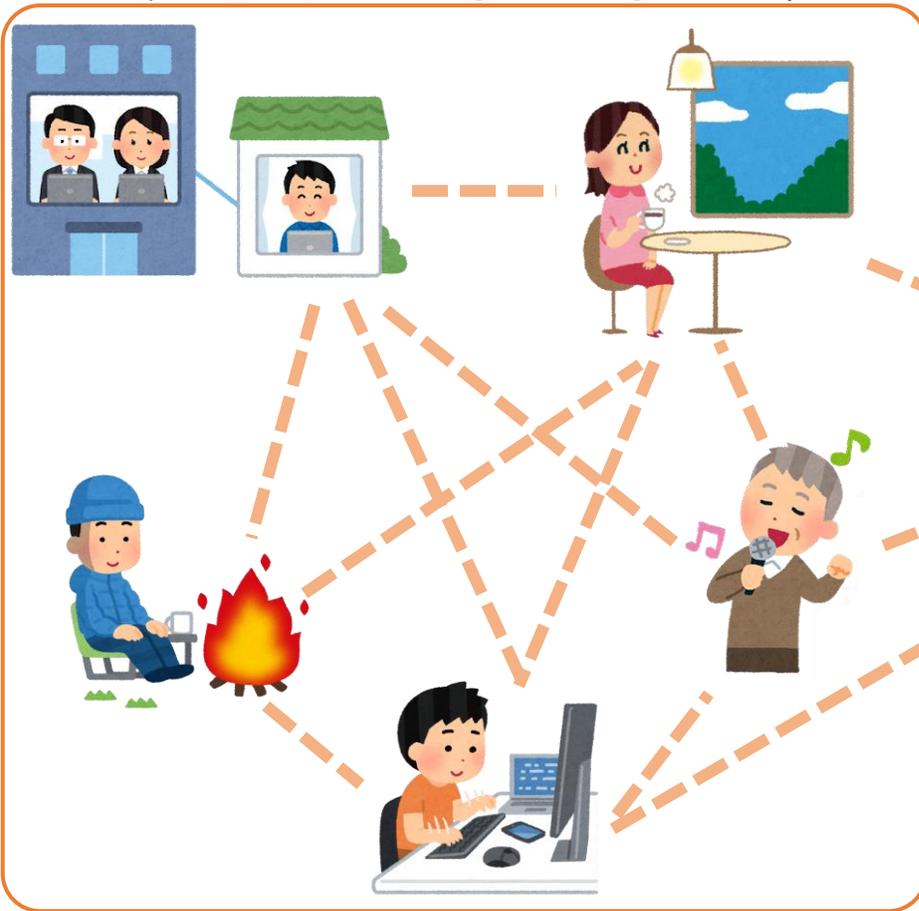
## ③社会的孤立・孤独を予防する 仕組みづくりとその実践 及び効果検証

- ・スモールスタート期間に得られた  
知見に基づく予防介入法の開発
- ・地域住民に対する研修の実施や  
予防介入法の実践
- ・開発した尺度等を  
活用した効果  
検証と社会  
への実装



# 本プロジェクトが目指す健康な「個立」社会

ゆるやかなつながり



自尊心 ↑

心身の健康 ↑



必要に応じて  
援助を求めることが  
できるスキル

孤独感・抑うつ ↓

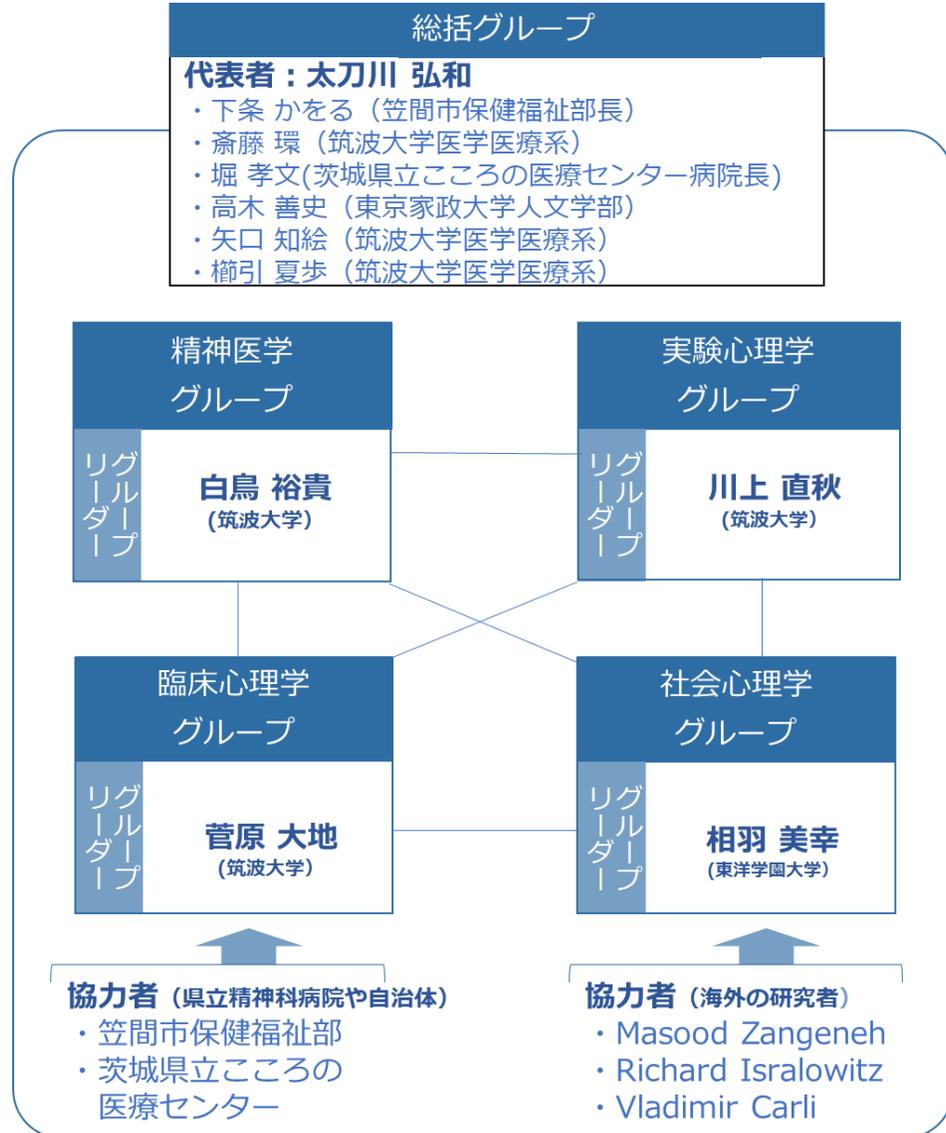
スティグマ ↓



個人が単独で生活しつつも、孤独感をもたず、心身ともに健やかな生活ができ、何らかの障害が生じたときにはすみやかに相談援助をできるスキルを持つ社会

# 研究班とスケジュール

## 研究班構成



## スモールスタート期間

2021年11月  
～2022年3月

2022年4月  
～2023年3月

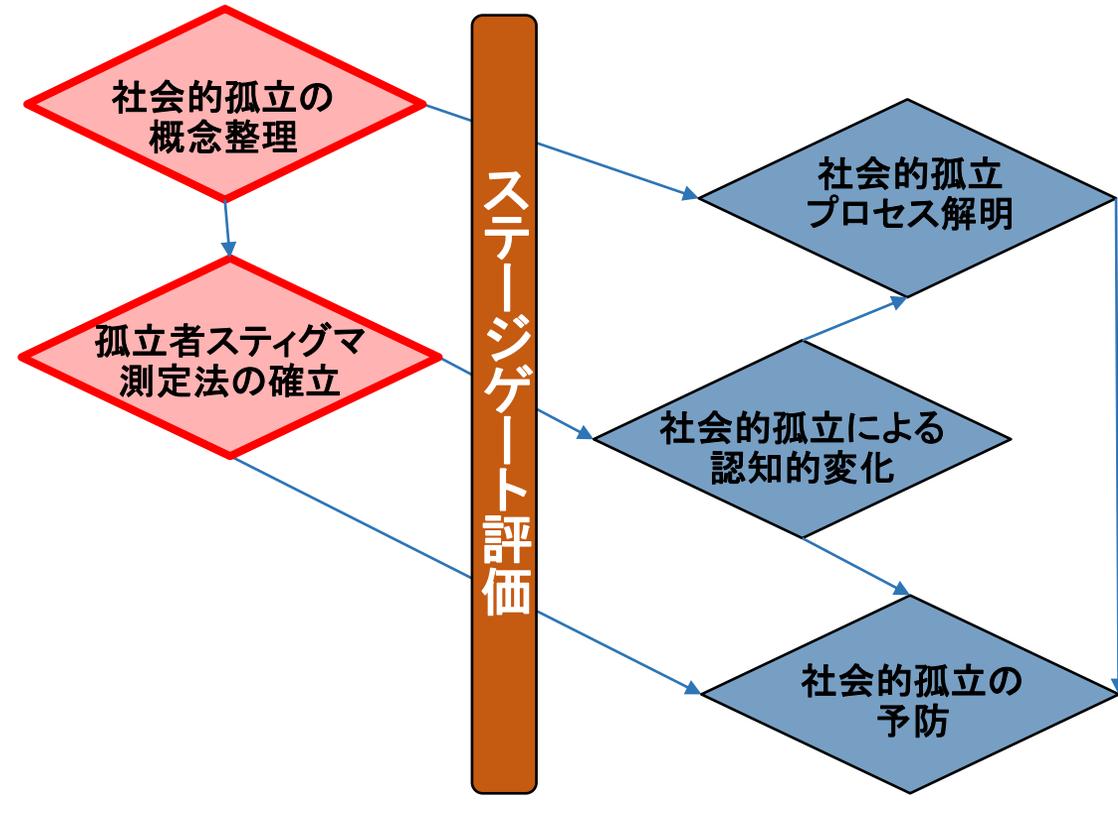
## 本格研究開発期間

2023年4月  
～2024年3月

2024年4月  
～2025年3月

2025年4月  
～2026年3月

- 大項目1  
中項目1-1  
中項目1-2
- 大項目2  
中項目2-1  
中項目2-2
- 大項目3  
中項目3-1  
中項目3-2
- 大項目4  
中項目4-1  
中項目4-2
- 大項目5  
中項目5-1
- 大項目6  
中項目6-1
- 大項目7  
中項目7-1  
中項目7-2





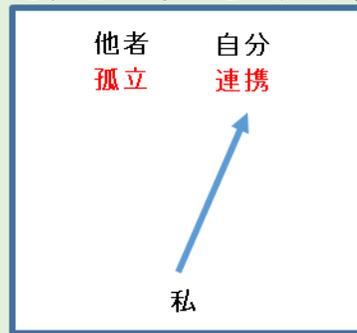
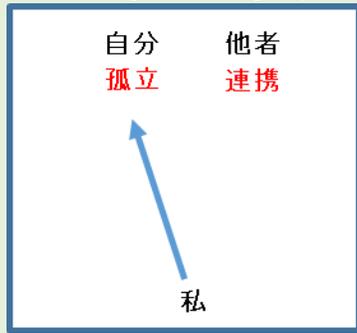
# 社会的孤立者スティグマ測定法の確立

## 社会的孤立のスティグマ尺度の作成 (社会心理グループ)

- ・調査対象者: 一般成人1029名
- ・社会的孤立に対するスティグマ尺度 (パブリックスティグマ、スティグマへの同意、知覚されたスティグマ、スティグマの自己一致) の候補項目 (各22項目計88項目5件法)、候補項目のわかりやすさ、孤立者のイメージなどを測定

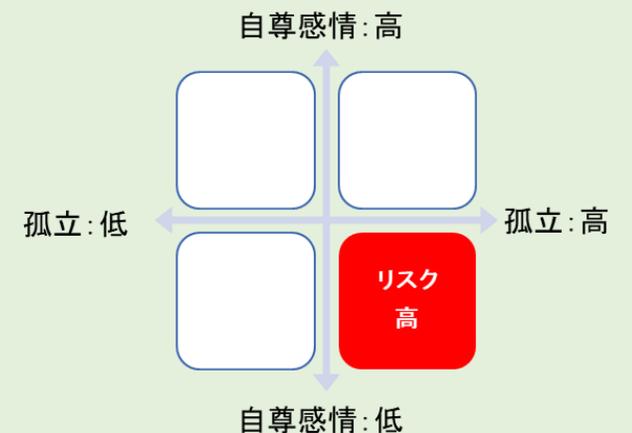
## 潜在連合テスト (IAT) によるスティグマの内在大化 (実験心理グループ)

- ・社会孤立者へのスティグマを測定するIATを独自に開発。自尊感情IATや自尊感情 (or 自己愛) も測定し、不健康な孤立に繋がるリスクを評価



「孤立」: 孤独、独居、ひとり、無縁、気まま

「連携」: みんな、協調、仲間、相談、交流



- ・実験の結果、スティグマIATによって、ある程度類型化が可能。

しかし、スティグマIATと自尊感情IATの相関が強い。カテゴリや分類刺激の精査が必要

# 現状見えている課題 プロジェクトに関わっていただきたい方

## 現状見えている課題

- ・社会的孤立のプロセスがわかり始め、評価法も確立しつつある
- ・介入研究の実施フィールドも開拓中である
- ただし、本事業で開発される評価法や介入法を事業後にも継続していくためには、社会制度として導入することが不可欠

## プロジェクトに関わっていただきたい方

- ・政府関係者、社会制度設計に携わる方

## プロジェクトに関する問い合わせ先

菅原 大地 (筑波大学/事務局長/sugawara@human.tsukuba.ac.jp)